

授業科目名	高齢者看護学概論		担当教員	◎長江弘子、青山美紀子、 那須真弓、山田案美加、日高千絵	科目ナンバリング
必修	開講年次：2年後期	単位：2単位	授業形態：講義30時間		NS261

【授業概要】

高齢者の健康増進や QOL(Quality of Life)の向上についての学問的 pursuit と知識の向上をはかることは、長寿社会を迎えた日本、特に高齢化率の高い南房総地区においては重要な課題である。このコースは、高齢者を身体・生理的側面、ライフステージ、社会的側面から理解し、適切は看護を実践するための理論と技術を学ぶ。

【達成目標】

目的：高齢者看護学の基礎的理解のために、高齢者の理解を深め、高齢者にとっての健康とは何か、幸せとは何かについて考える。そのうえで高齢者の希望や生きがい、健康レベルに応じた看護実践に求められる基礎的な知識と技術と態度を習得する。

1. 高齢者を取り巻く社会状況や保健医療制度について説明できる。
2. 高齢者の発達課題や健康について自分の考えを述べるができる。
3. 高齢者の加齢に伴う身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
4. 高齢者が保持している能力を活用しながら看護を展開する必要性と、その方法について説明できる。
5. 身体・精神機能の加齢変化を理解し、予防的視点から高齢者看護について説明できる。
6. 高齢者看護に応用される理論について述べるができる。
7. 高齢者看護領域における倫理的問題について説明できる。
8. 老いることについて自らの考えを述べるができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------------|
| [01] 講義のオリエンテーション 老年期を生きる人の理解と老年看護 [i] | (長江) |
| [02] 高齢者の暮らしを支える社会資源・厚生統計からみた高齢者像 [ii] | (長江) |
| [03] 課題① 高齢者擬似体験を通して生活を理解する [iii] | (山田) |
| [04] 老年看護に活用できる理論・アプローチ [iv] | (長江) |
| [05] 演習：高齢者の体力測定体験(課題②説明) | (長江・青山・山田・那須) |
| [06] [07] 演習：高齢者の体力測定補助と交流 | (長江・青山・山田・那須) |
| [08] 心理・精神的側面の加齢変化と影響① [v] | (青山) |
| [09] 課題③「映画鑑賞」 心理・精神的側面の加齢変化と生活への影響② | (青山) |
| [10] 高齢者の健康生活の支援(ICF) [vi] | (那須) |
| [11] 高齢者とその家族への看護 [vii] | (長江) |
| [12] 高齢者の人生の最終段階における看護(エンドオブライフケア) [viii] | (長江) |
| [13] [14] 課題④ 高齢者の豊かな地域とは
高齢者の権利擁護と倫理的課題(鴨川市の取り組みと寸劇) | (日高) |
| [15] 課題⑤ 討議「面接体験」を経験して、高齢者看護を学ぶ | (長江・青山・山田・那須) |

【教科書】

水谷信子他監修 三重野英子他編集(2022). 最新老年看護学第4版 日本看護協会出版

【参考書】

適宜提示

【評価方法・評価基準】

- ・試験成績 80%(小テスト合計(40%)+定期試験(40%))
- ・課題学習 20%(高齢者擬似体験、面接体験、権利擁護、など)
- ・成績は試験得点合計が60%以上で課題学習点を含めた総合点

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前課題を提出するとともに授業内容に合わせて、指定された教科書等を読み、学習内容の理解を深める。(1時間)

事後学習：授業終了後に学習内容の復習を行い、小テストに備え学習内容の理解を深める。(2時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

【備考】

特になし